

令和8年度

佐那河内中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中一貫(9年間)を見通した「主体的・対話的
で深い学び」の実現に向けた授業改善

校長

松谷 薫

学力向上推進員

坂東 綾希・鈴江 渉

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職や小中教員による授業参観や報告、小中合同研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いて授業に取り組み、ICT等も活用しながら反復学習に継続して取り組もうとする姿が見られる。 ●学習内容の定着に個人差があり、計画的な家庭学習や身につけた知識・技能等を関連付けたりすることに課題がある。	・見通しをもって計画的に学習し、反復を通して基礎的な知識・技能を確実に定着させることができる。 ・身につけた知識・技能を既習事項と関連付け、他の学習や場面で活用することができる。	・テスト日程の事前周知や家庭と連携した学習計画づくりにより、PDCAサイクルを意識した学習を促す。 ・他学年・他教科の教員が相互に授業参観を行う。 ・質問教室の開催やICT(ミライシード等)による反復学習と協働学習でのアウトプット機会を組み合わせ、知識・技能等の定着を図る。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○対話的な学習に積極的に参加し、多様な意見に触れながら自分の考えを深めようとする姿が見られる。 ●必要な情報の取捨選択や根拠を明確にした記述に課題があり、思考を整理して表現する力にばらつきがある。	・必要な情報を取捨選択し、多様な考えを比較・統合して自分の考えを形成することができる。 ・根拠を明確にししながら、考えを整理して記述・表現することができる。	・生成AI等を活用して多様な視点に触れさせるとともに、「なぜ」を問う発問で思考を深める授業を行う。 ・記述活動を日常的に取り入れ、相互評価や対話活動(ホワイトボード・ミーティング®等)を通して表現力を高める。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自ら課題を見つけて取り組もうとする意欲があり、学習に前向きに向き合う姿勢が見られる。 ●学習計画の立案や振り返りを基にした継続的な学習習慣の定着が不十分で、見通しをもった学習に課題がある。	・自ら課題を設定し、見通しをもって学習計画を立て、継続的に学習に取り組むことができる。 ・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。	・授業内で振り返りの時間を確保し、段階的な指導と個別助言により自立的な学習習慣を育成する。 ・何をなぜ、どのように学ぶのかが生徒に伝わるよう、授業の目当てを提示する。			